

～ 山田賞 ～



豊岡 伸一

略 歴

- 昭和43年11月7日生
- 平成6年3月 岡山大学医学部卒業
- 平成6年4月 岡山大学大学院医学研究科入学
- 平成6年9月 三豊総合病院外科勤務
- 平成8年9月 岡山大学医学部附属病院第二外科入局
- 平成11年9月 University of Texas Southwestern Medical Center
Postdoctoral fellow
- 平成13年3月 岡山大学大学院医学研究科修了
- 平成14年6月 米国留学先より岡山大学医学部第二外科帰局
- 平成14年7月 岡山大学医学部附属病院第二外科医員
- 平成14年9月 香川県立中央病院外科 医員
- 平成15年9月 国立がんセンター東病院胸部外科 研修医
- 平成16年5月 岡山大学医学部・歯学部附属病院呼吸器外科 医員
- 平成16年10月 岡山大学医学部・歯学部附属病院呼吸器外科 助手
現在に至る
- 平成19年4月 助手は「助教」となる。

研究論文内容要旨

ジェネティック、エピジェネティックな異常は肺の癌化において重要な役割を担っている。ジェネティックな異常ではEGFR、K-ras 遺伝子変異が相互に排他的関係にある異常であり、エピジェネティック異常ではp16などの腫瘍抑制遺伝子のメチル化が知られている。本研究は、肺腺癌のジェネティック異常とエピジェネティック異常の関係についての検討である。EGFR変異肺癌ではエピジェネティック異常を有していない肺腺癌が多く、K-ras変異肺癌ではエピジェネティック異常も有している肺腺癌が多いことを証明した。